



補習校だより

平成24年度 第17号

平成24年9月1日発行

マイアミ補習校

校長 永井 晋

事務所 305-406-0050

校長携帯 917-521-5768

ホームページ miamihoshuko.org

E-mail hoshuko@bellsouth.net

ハリケーン

校長 永井 晋

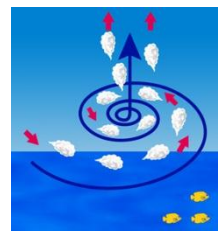
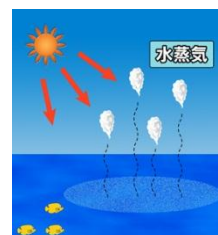
先週はハリケーンの影響で天候が心配ではらはらドキドキの1日でした。幸いにも補習校は1日予定通り授業を行うことができましたし、マイアミ周辺は大きな被害に見舞われることもありませんでした。ただ、ニューオリンズに上陸したので、カトリナに続き本当にお気の毒なことです。今回の出来事での収穫は緊急時の連絡方法です。今後、今回のように当日の朝まで判断しかねるような状況の場合にはホームページでご連絡いたします。よろしくお願いいたします。

さて、トロピカルストームやハリケーン（日本ではひとくくりに台風ですね）はどのような仕組みで発生し、どんな一生を終えるのでしょうか。私は、理科は専門外ですので調べてみました。

台風は、赤道付近で温められた空気が海の水（水蒸気）を含んで激しく上昇することから始まります。上昇した水蒸気はやがて雲になり、その周辺に同じような雲がたくさんできます。雲の下では空気がたくさん上昇したので、空気が薄くなり周りから空気がどんどん吹き込んできます。周りから吹き込んだ空気は逃げ場がないので、上昇し、さらに周りから空気が吹き込むようになります。同じことが繰り返され、雲はどんどん大きくなり、雲の下の空気もどんどん強く吹き込むようになります。その空気は地球の自転によって反時計回りに回転を始めます。その風の流れに沿って雲自体も反時計回りに回転しだし、その遠心力でどんどん雲が広がっていきます。ここまで発達したものが台風です。

台風は地球の自転により北へ動きますが、低緯度では東風が吹いているので北西に進み、高緯度では偏西風が吹いているので北東に進路を変えます。そして、海上にあるときには水蒸気が上昇し、どんどん発達しますが、上陸したとたんに水蒸気なくなるので勢力が衰えます。

つまり、フロリダの南東には大西洋が広がり、赤道も近いことから台風ができやすく、周辺の海には島々しかなく大陸がないため、フロリダや本土に上陸しない限り台風は発達を続けるため、カテゴリー○というとんでもない大きさの台風になるわけですね。日本と比べると緯度の違いが明らかで、マイアミは沖縄本島より南に位置します。



(先月末で任期を終えられた出村前代表会長 1年間ありがとうございました) ↑